

大東亞共榮圈と幼兒教育

文部省總務局涉外課

森

田

孝

一 支那事變が起つてから、興亞教育と云ふ言葉が流行し、大東亞戰爭が初まつてから特に興亞教師論が喧しくなつてゐる。私共素人はこんな言葉を聞くに、何か特別の學說が臺頭して來て、今後は難しい研究をし、從來とは全く異つた教育方法を探らねば其の趣旨に添ふことが出来ないのではないかと心配する。事實私はその爲めに、論者の説を相當漁つてみたし、又二年程前から偶々國際的な文化事業に携る機會を得て、色々の事例を見聞し、經驗する間に、此の問題に關し反省し考究する義務を課された。そこで今日迄に得た私の結論を最初に説明せうと思ふ。

興亞教育は一面に於て從來の教育と全く異つたものであると共に、他面に於て全く同一のものである。全く異なるのは方法の問題に於てあり、全く同じなのは理念の問題に於てである。云ふ迄も無く、我が國教育の大眼目は終始一貫教育に關する御勅語に御示しになつてゐる。「之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラ」ないのである。大東亞建設と云ふ我が國開關以來未曾有の飛躍的展開期に於ても尙ほ「子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所」を仰せられてゐる如く、斯の道は飽く迄我々日本人の則るべき皇國の道である。従つて、此の教育の根本方針に於て五十年前も今日も何等變る所が無いと言つてよいと思ふ。併し、此の御勅語の御趣旨を達成する上に於て、果して從來爲して來たやうな態度なり方法なりでよいであらうかと思ふ問題が、今や提起せられたのである。そしてそれは如何なる形に於ても教育者三名の付く人は誰でも、今日ハッキリ解決し、その解決點に立脚して教育に邁進せねばならぬ義務を持つてゐる。これから述べる所に依つて明かな如く、此の責任は兵士の一人一人が戰場に於て擔つてゐるのと同じ程度に皇國の運命が課せられてゐる重大なものである。大東亞建設の大業は、教育者が此の責任をどの程度に果すかに依つて其の成否を左右されると思つても過言ではない。

二 幼兒教育に携つてゐる人々は特によく氣が付く事と思ふが、子供の性格は殊に其の家庭や周圍の社會の風潮に依つて決定せられてゐる。而も此の子供の時の性格が生涯を形造くるのである。最近迄或る高等農林の校長をしてゐられた知人が嘗つて女子教育の重要性を説いて、人間の性格は二歳迄に決定される云はれた。胎教の重要性は今でも信じられてゐる。此等の點から考へて、我々の祖先が三千年の間次ぎ次ぎに受けて來た母や家庭や村や、そして又大きくは國の風格の影響は實に圖り知れないものがある。我々の祖先が三千年の間皇室を中心一家の如く睦み合ひ、一致團結して天業の恢弘を冀贊し奉つて、彌榮えに榮えて來た事實は、今や我々日本民族の血や肉に獨得の性格を造り上げて來た。

其の第一は、皇室を離れ即ち日本云ふ國を離れて生きてゆけない性格である。我々の生活は、國家生活から切りはなして考へ得られない。之は内地だけで生活してゐる場合には餘り氣がつかぬかも知れないが、他民族殊に滿人、漢人の生活を見比べてみるに一番ハッキリ解る。一二の例を拾つてみるに、(一)、我々のうちのざれだけが我々を管轄してゐる警察の署長の名前なり經歷なり人物なりを知つてゐるであらうか。而も尙我々は警察の御達しだと言へば無條件に之に従ひ、之に協力する。之は決して其の警察署長の人物をよく知つて、其の人物に對する信頼を尊敬から生れ出た服従でも協力でも無い。我々が警察的な達しなり取締りなりに服従し協力するのは、之を發した署長の人物を信頼する云ふよりも、彼が國家から警察署長に任命せられた云ふ事實、換言すれば彼の肩書なり資格なりが物を言つてゐるのである。もつと突き詰めて言ふならば、我々日本人は日本の國を絶對的に信頼し、之に自分等の生活の一切を歸一せしめ、全面的に之に依存してゐるから、其の國家が此の人物は適任なりとして任命した人ならば、その事實だけで之に全幅的な信頼を置き、尊敬を拂ふのである。然るに支那滿洲には古來官匪云ふ言葉が有つて、官吏も匪賊の一種に數へられてゐる。支那人滿洲人にまつて、官吏は畏怖の種でこそあれ、信頼や尊敬の的では絶對に有り得ない。彼等が眞に信頼し尊敬する官吏ありますれば、それは其の人が官吏なるが故で無く、其の人の人物そのものが眞に信頼を受け、尊敬を受けるに値ひするからである。従つて、一度び信頼し尊敬したら、其の人が官職に就いてるやうに野に下つて無位無官の一社會人にならうと、飽く迄其の人を信頼し尊敬してついて來るのが支那人滿洲人の性格である。之は日本人が三千年の日本歴史に依つて、今日の如く皇室を離れ、國家を離れて考へ得られないやうな民族性を具有するに到つたと同じく、彼等の五千年の歴史が今日の滿人漢人の性格を形造つて來たのである。滿人漢人は日本人と正反對に、五千年の間國家の恩惠は少しも受け

ず、寧ろ興亡常無き政情に苦しめられ、萬里長城の築造に依つても明かな如く、異民族に對する恐怖に悩まされ通してあつた。従つて、滿人漢人が其の生命を保持し、其の子孫の繁榮を期待する唯一の方法は、自分の實力に頼り、又自分が眞に信頼し、尊敬し得る人物を見出して之に依存し、ついて行く外無かつた譯である。故に彼等にまつては肩書や資格は何等信頼の第一義的根據ならぬ。彼等にまつて物を言ふのは事實であり、實力だけである。(2)、此の事は教育者に就ても全く同様で、私も二年半程或る縣で教育行政の衝に當り、三回程師範學校の卒業生を送り出したが、彼等は師範を出て縣から「○○縣訓導ヲ命ズ」云ふ辭令を貰つて、夫々地方の國民學校に赴任して行けば、兒童は勿論父兄から先生として絶對的な信頼と尊敬を受ける。其の人物に於て、實力に於て、十年二十年の經驗や研究を重ねた先輩訓導に及ばざる所が必ず有るであらうが、兒童や父兄の信頼と尊敬は彼此變る所が無い。之れ全く彼等が訓導として、學校の先生として國家から公認せられてゐる事實に基くからである。滿人漢人にまつて眞に師として敬ふに足るや否やは、此の肩書に第一義的根據が有るのでは無く、其の經驗や研究の結果、即ち其の人物の如何に第一義的なものを置いてゐるのである。(3)、北支で二年程支那人に對する文化行政に携つてゐた人が、最近歸朝して筆者に物語つた述懐の中にこんな事が有つた。さうも支那人の陳情を聞いてゐるに我々日本人の持つてゐる論理と全く違ふやうだ。我々から考へるに、彼等の前提と結論との間に全然脈絡が無いのみならず、其の前提の間にも一貫性が無い。而も彼等にまつてそれが眞實であり、又事實に於て其の前提とせられてゐる状態から其の結論とせられてゐる状態が出現するのである。換言すれば日本人同志の間で通用する論理は支那人滿洲人の間には通用しない。併し、彼等の持つてゐる理窟は、彼等の生活に具體的には妥當してゐるのである。

以上の實例から考へ得ることは、我々日本人が、日本人同志の間で通用してゐる話や理窟を他の民族の間に持つて行つても有りの儘には通用しない事である。さうへ行つても通用するものは、我々の生活に於て具現されてゐる事實だけである。如何なる懸河の辯も巧妙な口説も他民族にまつては何等の價値の無いものである。その民族にも正しく受けとられるのは、我々の生活力、實踐力だけである。

三 我々日本人が大東亞共榮圏の指導者にならねばならぬことは自明の理であり、周知の事であると思ふ。併し、さうして我々は指導者として大東亞諸民族から信頼と尊敬を受けるか。八紘爲宇の大理想之に勿論非の打ちどころは無い。

併し、我々が如何に此の理想の高邁なることや有難いことを大東亞共榮圏内の人々に申し聞かせた所で、彼等は決して喜んでついて來ない。従つて、我々は如何に雄辯な或ひは巧妙な口説の徒を育成しても、日本を中心として大東亞建設云ふ大業完遂に役立ち得ないのである。況んや、小理窟を竝べたり、小事に拘泥したり、肩書や資格だけを振り翳して無理押しに押してゆかうとするやうな人物の育成に於ておや。要は理窟でない。理論でない。概念でない。生活の事實であり、生活力そのものであり、實踐力の培養以外に、此の雄渾なる天業恢弘を翼賛し奉り得る日本人の育成は無いのである。事實に於て大東亞諸民族が各々其の所を得て、大御稜威の下生々發展の實を擧げてゆく所に、大東亞建設は自ら成るのである。

然らば従來の教育は斯る實踐力の培養に資する所が無かつたか云ふに、決してさうでは無い。只従來の學校教育は餘りに知育に力を入れ過ぎ、又従來の教科過程は餘りに科學的に體系化され過ぎてゐた。従つて、それは必然的に概念的ならざるを得なかつた。勿論それは徐々に生活に即するやうに改善されて來たけれども、國民學校制度が生れる迄は其の根本に於て徹底し得ないものが有つた。故に今や學校教育に於て如何にして實踐力を培養するか、各教科を如何にして兒童の生活化せしめるか云ふ問題が大きく採り上げられて來たのである。従來は兒童生徒が教へられた事を如何にして自分の生活に消化し、如何にして自分の實踐力を培養するのに役立たせるかは、兒童生徒自身の問題として、其の能力に任せられてゐた。之に反し、國民學校の教育に於ては、兒童の生活そのものが先づ採り上げられるのである。例へば、我々の小學校時代の讀本は「ハタ、タコ、コマ」云ふ物の概念から初められてゐた。それが生活に即せしめる意味に於て、次の時代には「サクラサクラサクラサイタ」云ふ「櫻が咲く」云ふ事實から入つて行くやうに改められた。併し、大都會の子供なぎの中には櫻も見た事が無ければ、それが咲く云ふ現象に接した事も無い兒童が有るかも知れない。國民學校時代になるに、それが兒童の話し方から初められることになつてゐる。「話す」ことは二歳にでもなればこの子供の生活にも有ることであり、學齡に達する子供なら啞で無い限り話す生活はある。此の刷新は單に程度を高めただけで無く、其の態度に於て百八十度の轉換をなしたのである。

私は十年前前に學校を出た者であるが、つい最近迄左の歌の意味がほんたうに解らなかつた。否、學校で教へられた時以來解つたつもりであるが、事實はほんたうに解つてゐなかつた事が最近わかつたのである。

み民我生けるしるしあり天地の

榮える時にあへらく思へば

彌榮えに榮えまつる御代を思ふに、大御寶として生を享けた喜びに有難さを泌々感ずるに云つたやうな意味だは解釋してゐたし、又人にもその意味で度々此の歌を引用して話をしてゐた。然るに、先年紀元二千六百年の佳節に當り、御召しに預つて、宮城前で奉祝の賀宴に參列するの榮に浴した。懼れ多い事であるが、其の節、天皇皇后兩陛下におかせられては、正面の御殿に出御遊ばされ、御机の上の御箸を御探りになりつゝ、御和やかな御容子で御話し合ひをなされつゝある。其の御前で我々民草一同が折詰を開き箸を採つて、聖壽の彌榮を壽ぐことが出来た時、其の時こそ、本當に嬉しさに涙が出て仕方が無かつた。私ばかりでは無い。周圍の誰彼も感極つてゐるやうであつた。私はその時思はず知らず前記の歌を口吟ひてゐたのである。それ迄の私は矢張り概念的であつた。頭だけで解つてゐたので、具體的、生活的で無かつた。

もう一つ例を上げやう。私は學校を見せて貰ひに行くに、兒童生徒諸君によく「天業を翼贊し奉る皇民は誰だ」と云ふ質問を出したものである。上手に答へる子供は大抵「日本人です」と云ふ。勿論之で間違ひ無い。併し、兒童生徒をして「天業を翼贊し奉る皇民は日本人だ」と云ふ事を知つてゐる子供にするだけの教育が果して完璧なものであらうか。私はこのやうな返事を聞くにいつも、何故「天業を翼贊し奉るのは僕だ。私だ。」と云ふ返事が出来る迄、もう一步徹底出来ないであらうと思ふのであつた。

四 實踐力培養を主眼とする教育は「教へる」と云ふよりは寧ろ「化する」のである。兒童を單に知的に見ないばかりでなく、知徳體なごゝ分析的に眺め、知育、徳育、體育なごゝ分けて考へるのでは無い。子供の生活そのものを一つのものとして採り上げてやるのである。彼の生活は横には家に村に國に擴がつてゐるし、縦に考へれば遠い祖先から遠い子孫に繼がつてゐるのである。教育者は此のやうに意味の深い、内容の豊かな兒童の生活を汲むでやつて、それがその儘擁ては教育勅語に御示しになつてゐる境地に到達するやうに導いて行つてやるのである。之は單なる技術では出来ない。況んや、空疎な理窟や口頭禪では出来ない事である。教育者自身の修鍊を教育者たるの自覺に基く深い廣い愛の力に依る外ない。殊に幼稚園は教育の段階のうちで最も「化する」度合の強い所である。明治天皇の御製にも

うちつれて園生にあそぶやうなる子は

學ぶこなしにもの學ぶらん

を併せられてゐる。併し、之は幼稚園は學校教育の準備教育でないとか、寧ろ家庭生活の補充的意味をなしてゐるとか云ふ議論を正當化する御言葉であるとは拜誦しないのである。今迄述べて來た所に依つても明かな如く、國民學校は從來の小學校と異り、教へる所であるよりも寧ろ化する所である。兒童の生活を一體として採り上げる云ふ根本的態度に於ては幼稚園と國民學校との間に何等の差異が無い。只指導上に於ける分化の程度が段々高度になるだけであつて、教育の精神は勿論其の態度なり、方法なりに就いても兩者の間に一貫性が無ければならぬと思ふ。準備教育云ふ言葉が知育の面に就いてのみ云ふものならば、それはもう今日に於ては幼稚園のみならず學校教育の如何なる段階に於ても存在しないのである。そして又生活全體に於ける「斯ノ道」の修練云ふ意味に於て考ふれば、如何なる教育の段階も常に次ぎの段階への發展を豫想しないものは無い。此の修練は生涯續くべきものであり、學校時代と然らざる時代との違ひは指導者而も國家から公認された資格を有する指導者が指導するやう定められてゐるいはゞ人生の基礎的修練なるや否やの相違に過ぎない。其の意味では幼稚園と學校とは變る所が無いし、又其の意味では幼稚園は國民學校の準備的役割を果すべき所であり、保姆たる者は國民學校を十分研究し、其の繼りを考へて指導すべきである。併し、如何なる段階の教育でも、眼目は常に教育に關する御勅語に在るべきであるから、此の意味で準備教育で無いと言ふのなら又準備教育はここにも存在しないのである。

更に幼稚園は家庭教育の補充が目的だ云ふ考へは、勿論幼稚園令第一條の條文に基くものであらうと思ふが、問題はこの家庭教育に在るのであつて、之を無條件に認めて、幼稚園で其の補充教育をするのだと考へるならば之又大きな誤りであると思ふ。少く共最近迄の我が國の各家庭に於て、個人主義的な占有觀念が親の心を占め、子供の生活に潛むでゐなかつたに誰が斷言出來やうか、國を離れた家は無く、國家生活と切り離して家の生活も兒童の生活も無い事、既に述べた通りである、子供は子供なりに、大御寶としての正しい生き方に徹せしむるのが幼稚園の目的である。従つて、現行幼稚園令第一條は、右の趣旨に於いて正しい家庭教育が行はれる事を前提として理解されねばならない。教育審議會の答申中にも幼稚園は單に家庭を扶けるのみならず、家庭教育の改善に裨益し、幼児保育の全きを期すべき事が述べられてゐる。是等の點を考へるに、我が國未曾有の飛躍的發展期に際會した今日、大東亞建設の指導者たるべき大國民的性格を具有する日本人を育成する上に於て、幼稚園に於ける保育の占むる重要性は實に測り知れないものがある。

五 然らば、園児指導者たる保姆に求められるものは何か。保姆の努むべき事、在るべき姿如何。此の問題を結論として提起したいと思ふ。

幼稚園令第九條には「保姆ハ幼兒ノ保育ヲ掌ル」云ある。保育云ふ以上特に保健や躰に重點を置いた教育であることは明かである。併し、それは決して子供のお守りや従来よく見掛けた如き特種の宗教々育であつてはならない。保育も亦教育として教育に關する御勸語の御趣旨の徹底に外ならない。従つて又其の方法は之迄縷々説明した如き、時勢の進運に即應した大東亞共榮圈内でも通用する實踐力、生活力の培養に重點が置かれねばならぬ。

併し、保健や躰に重點を置いて、大國民的性格を具有する日本人を造り上げる云ふことは容易のことではない。第一今日の子供は十年前の子供とは全く異つた雰圍氣に育つてゐる。此の急激な時代の伸展を眞に體認出来るのは幼兒が一番である云々へ思ふ。成人は觀念的には或ひは理論的には認識するかも知れないが、執着するものも無く、無條件に時代の空氣を受容れられ、自然に其の中に入つて息吹きの出來るのは子供ばかりであると言つてよい。殊に自由主義時代に教育を受けた者が、此の大東亞建設の大業に全身全靈を投げ出して參じ得るには餘程の修練が必要である。否、數年前に學校を出た者でも、一昨年大東亞戰爭勃發以來の躍進日本の胎内に、シツカリ身を入れ得るには熾烈なる自己鍊成が無ければ不可能であらう。

嘗て滿洲國の留學生の一人が私に苦衷を訴へた事がある。それは日本の學校で色々の場合に書く、例へば試験の答案とか或ひは感想文等から見て、いつも教官に注意を受ける。滿洲國政府からわざわざ親邦日本に派遣せられて來た留學生がいつ迄も日本精神を理解しない、稍々もする自由主義乃至は共產主義的な思想のひらめきを見せる。そこを注意され、又それ故に成績も良くして呉れない。併し、其の學生は斯う云つて眞情を吐露してゐた。

「私は十年前即ち滿洲國が生れる前に既に人々爲り、蔣介石、張學良の抗日共產の教育を受けて育つた。私の育つた頃は四圍總べてが其の雰圍氣であつたから、私はそれに何の疑問も持たなかつた。併し、滿洲國が生れ、日本と精神一體となつて、民族協和、王道樂土の建設が始まつてみるに、我々の育つて來た社會が間違つてゐた事に氣付いた。そこで私は新生滿洲國の建國精神を理解し、其の中堅にならうと決心し、爾來研究に修養にあらゆる努力を拂つて來た。理窟では十分解り、十二分に納得してゐるが、仔細に自分の生活なり、眞情を見てみるに、矢張りまた成り切つてゐないのです。そ

れが私の論文なり、答案なりに自然に出て来るのです。生れて十五年の間に泌み込む性格は、十年掛つても抜け切らないのです。私はそれが自分でも解るだけに人一倍苦しみ悩み、修練に熱情を傾けてゐます。其の點に於て他の何人にも負けないつもりです。私より年上の人々が時局に徹し、滿洲國の理想を體得した如き言動をなすのを見るに感心するばかりだし、又私より若い、殊に十一・二歳以下の子供を見るに生れ乍らにして此の有難い滿洲國の樂土に生を享けた事が羨ましくして仕様が無いのです。云々

保母たる者が、之だけの反省を精進を持つてゐたならば、園児を教育するよりも、園児の生活の中に幾多の反省を精進の機縁を見出すであらう。そこに眞の同心同行の境地が在り、そこから教育者としての大きな愛も情熱も湧いて来るであらう。教育技術などはその先きの先きの問題である。同じ血をわけた同胞であり、陛下の民草であるが、時勢の進運が餘りに急激なため五年前十年前の日本と今日の日本とは大きな隔りがあり、それだけ民族性の陶冶に於て進歩が無ければならない。既に過去に於て教育を終つた者よりは、未だ幼くして何等捉はれるものゝない幼児の方が時代即應性が有る。殊に生じつか教育を受けた者は、過去に於て與へられた既成概念に囚はれて、時勢の流れを自己勝手に認識し、曲つて解釋し勝ちである。此の自分の持つてゐる既成概念から抜け切つて、園児の生活からも、田夫野人の生活からも、尊い教へられるものを見出し得るやうになつた時、始めて自分にも將來に對する洞察力や見識が湧いて来る。そこで始めて教育者として遺憾の無い人物たり得るのである。

さうか教育者としての大きな愛を、右に述べた高い見識を養つて、其の手元に預けられてゐる何十人かの園児が、天子様を知り、皇太子殿下を慕ひ奉るやうに育て、貰ひたい。そしてこの民族をも手を携へて、天子様に御仕へ申し上げ、共々に惠澤に浴せしめやうとする前が、園児の心の中に少しでも芽生えて來たならば、保母を云ふ比較的小きな職にゐる人でも、立派な軍人に負けない大任を果しつゝある證據である。大東亞建設の大業を立派に翼賛し奉つてゐる證據である。理窟を覺えるのでは無い。園児と共に大きな愛の心で、其の心を持つて生き抜いて行く力を養ふべく反省を精進を研鑽を重ねる事こそ、大東亞建設に參する保母の姿であり、又それが大東亞共榮圈に於ける我が國幼児教育の生命であるを信ずる。

(以上)